

上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻 主催シンポジウム

Sophia University, Graduate Program in Area Studies, Graduate School of Global Studies

# 地域研究から見る難民問題 ビルマ（ミャンマー）の事例から

2015年10月23日（金）17時開始

開場 16時30分 / 20時終了

上智大学中央図書館 9階 L-911

事前申し込み不要

## <報告者>

久保忠行（大妻女子大比較文化学部専任講師）

久保珠美（東京外国語大学大学院博士後期課程）

根本 敬（上智大学総合グローバル学部 /  
大学院地域研究専攻教授）



地域研究は世界の様々な地域を「ローカル」と「グローバル」の両方の視点から見ていく学問です。その究極の目的は、対象地域に住む人々の生活と、彼らが築き上げてきた文化を、その歴史（性）を含めて立体的に研究し、理解し、彼らが置かれている現状を改善するための知的支援をおこなうことにあります。なかでも難民問題は、緊急を有する受け入れ状況の改善と並行して、難民を出してしまう側の複雑な事情や、難民自身が抱く自己認識を含めて考える必要があります。このシンポジウムでは、東南アジアで最も多くの難民を出している現代のビルマ（ミャンマー）に3つのテーマから迫り、現状認識を深めながら今後の解決の良きあり方を考えます。大学生と一般市民に向けたシンポジウムです。関心を有する方であればどなたでも歓迎します。

<プログラム> \*報告題は仮題です

趣旨説明 根本 敬

第一報告 「ロヒンギャ問題の解決はなぜ難しいのか」  
根本 敬

第二報告 「つくられる難民—カレンニーの事例から」  
久保忠行

第三報告 「日本の第三国定住—カレン人の現状と課題」  
久保珠美

コメント 福武慎太郎（上智大学総合グローバル学部）

総合討論（司会）丸井雅子（上智大学総合グローバル学部）



地域研究専攻ホームページ <http://dept.sophia.ac.jp/g/gs/areastudies/>

地域研究専攻院生運営 Facebook もチェックしてください！